

☆中学3年 修学旅行☆

10/27(月)～31(金)に行われた中学3年生の修学旅行。天候にも恵まれ、体調を崩す生徒もほぼなく、予定していた内容をすべて順調に終えることができました。

生徒たちは、APU(立命館アジア太平洋大学)での活動を通して、失敗を恐れず、シャイになることなく、積極的に取り組みました。そして、世界に貢献することを真剣に考え、自分自身の将来を考える大きなきっかけとなったようです。長崎では、永野さんの被ばく講話や原爆遺構をまわるフィールドワークなど、平和の尊さを感じたとともに、

当時を知る人が少なくなる今、後世に語り継ぐことの大切さを感じました。もちろん仲間と協力し、絆を深めたり、新たな発見があるなど充実した5日間となりました。

生徒達の感想文を掲載いたします。



◆修学旅行全体を振り返り、自分が「これから磨きあげていきたいこと」は何ですか？

積極的になる、ということです。学びの場も、貴重な話を聞ける時間も、今回は学校に提供してもらいました。だから、今度から外に出て学びに行くことが大切だと思いました。

また、外だけでそういったことを探すのではなく、今、この環境を最大限に利用することが今すべきことだと思いました。

以前、母に「留学に行きたい」などと軽くこぼすと、「日本の中でまだまだ学ぶことはあると思うけど」と言われ、それは確かにと感じました。チャンスがないと言うのではなく、今自分が恵まれた環境にいることを自覚し、その中で探することを積極的にしたいです。また人とのコミュニケーションの中でも積極的になりたいと思います。多くの人の話を聞くことは、とても

大きな学びの場になります。魅力的な話をする両親や先生のようにになりたいです。まずはこの週末に母の参加している活動について行かせてもらおうと思います。

(Sさん)



APUでの活動や、平和学習を通して感じたのは、「行動力」の大切さです。チンタさんやAPUリーダーの行動力、そして「～をしたい」という want の気持ちの強さに驚きました。実際、APUリーダーは故郷に帰って先進国の技術を広めたり、政治体制を変えたりするために、英語を身につけ、そして

世界の現状を知ることが必要だと考え、APUに来たそうです。私も早く将来の夢を見つけ、それを目指して努力するようにならなければと思いました。また、平和学習のフィールドワークで、心に残った言葉があります。「残りの人生、私たち被爆体験者にできることは、あなたたちに原爆の恐ろしさを伝えること。それができるだけ幸せ」とおっしゃった言葉です。被爆を体験された方がお話をしたり、過去のことを思い出したりするのは本当にお辛いはずなのに、「この話を次世代に伝えなければ」という強い意志があって、お話に来てくださっていることに心から感謝したいです。そしてその感謝の気持ちを表せるよう、私たちも聞いたお話や、感じたことを伝えていかなければいけないと強く感じました。「行動力」を大切にしていきたいです。

(Kさん)



初めて学級委員で修学旅行に行ったのにもかかわらず、点呼を取り忘れて、委員としてもそぐわない行動が少し多かったなと思いました。また、APUや平和学習で自分のためになったことがとても多くて、チンタさんの話や永野さんの話を聞いて、本当に自分は何をやっているのだろうと思いました。

自分で思ったり、やりたいと思ったりしたことを実現して、行動している人がいる中で、自分がこんな恵まれた環境で生きているのに何もできていないと思うと、情けなくなりました。夢を持つことが偉い、人のために生きている人が偉い、す

ごいというだけではないけれど、今の自分は最低限与えられていることさえも自分の欲を優先していて、できていなくて、なんなのだろうと思いました。いつもこういう方の話や講演を聞いたとき同じようなことを感じて、なりたい自分像はたくさん溢れてくるのに、溢れて終わっていて実行に移せていなくて、でもその自分を許してしまうことが多くあります。今の自分に与えられていることは勉強できる環境、友達のたくさんいる環境です。その与えられていることを果たすために、早く寝て、ちゃんと起きて、宿題をちゃんとやって、と当たり前だけでできていなかった普通のことを実行するため自分を変えていきます。

(Wさん)

修学旅行を通して、自分が未知のものがたくさんあるということ、考えていかなければならない問題がたくさんあるということを改めて感じる事ができた。「百聞は一見に如かず」という言葉がある。これは、何度も聞くより、一度実際に見た方が良いということだ。しかし遠い国において起こっている問題や、過去に落とされた原爆など実際に見ることの難しいものは多くある。「一见」することができないことは、「百聞」する努力をしななければならないのだと思う。

私は今まで知らないことは知らないと思って生きてきたが、知らないことこそ自分から知ろうとしなければならないのだと思った。

自分から知り、自分で考え、そして伝えていく。そんな風にみんなが動いていけば、それぞれの知識や意見がどんどん広がっていく。まずは自分自身が動こうとする、そんな気持ちが磨けたらと思う。

(Nさん)

平和学習で、平和でいることの重要性、平和に暮らせていることは恵まれているんだということが良く分かりました。だから、平和に暮らせていることを活かして、自分ができる世界貢献について考えていかなければならないと思いました。これからは具体的に何ができるのかを考えていきたいと思います。例えば、発展途上国では、子供でさえも戦場に連れて行かれてたくさんの人を殺し、殺されます。このような現状を知らない人もたく



さんいて、そのような人が大きくなったときにまた同じようなことが繰り返されては困ります。だから私たちがスピーチなどで戦争に広めていかなければならないと思います。世界を平和にするには、まず全員が全員の立場を知っておくところからはじまると思います。だから私は、これからもっと世界のいろいろな立場の人の現状と、その現状をどのように伝えるのが一番わかるかを考えていきたいです。

(Mさん)



まず、自分の夢に対して、具体的で小さな目標にいくつか区切って行動していくことをしていきたいと思う。行動をしなければ何も始まらないと思うので、少しでも進んでいけるようにしたいです。「毎日、新聞をきちんと読む」などの身近なことを地道にやっていこうと思う。

そして、自分はひとりで生きているわけではないということが、被爆された方のお話から感じることができたので、支えられている人に恩返しができるようにしたい。それは、APUでの社会貢献にもつながっていくのではないかなと思う。自分がこのように平和で生きているのは、戦争で原子爆弾を落とされ、恐ろしさを知っているからこそ、日本は核を持っていないし、戦

争もしていない。そのような背景をきちんと把握していきたいと思う。建物や記念碑、デザインなどにも意味が込められているのだと教えていただいたので、物事の背景を掴めるような観察眼を養えるように、観察することも大切にしていきたい。

(Hさん)

◆平和学習を振り返り、自分の「磨きあげられたこと」は何ですか？

平和に対する自分の考えが深まったと思います。平和学習を受ける前は、平和とは「戦争のない日々」だと思っていました。けど今は、「変わり映えのない日々」が平和なのだと分かりました。これからもつらいことは沢山あると思うのですが、それにしっかりと向き合って、楽しい日を大切に、友達との洗足学園での日々を大切にしていきたいと思います。

(Kさん)



世界全体を変えていくためには、まずは一人一人が自覚を持って行動することが一番大切であると感じた。それはどんなに小さいことでも、「塵も積もれば山となる」ということである。「自分」は違うと思わないで、一度自分自身を見直してみることからまずは始めてみようと思った。

(Kさん)

